

共に働く街づくり第2期をきりひらこう

会員の皆様、関係機関や協力者のみなさま、あけましておめでとうございます。

昨年は当会の内外において新たな人のつながりが増した1年でした。

このつながりの上に障害のある人もない人も共に働く街をつくる私たちの営みへ新たな一歩を踏み出す年にしたいと思います。

本年もよろしくお願ひ申し上げます。



写真は昨年12月9日に開催された「共に働く街を創るつどい2012」の第1部。「越谷におけるピアサポートによる就労支援」と題し、世一緒ファシリテーターの日吉さんと世一緒の当番を務める障害者スタッフたちが、当番の役割や仕事発見ミッション、グループワークといった全国的にも珍しい行動的なピアサポート活動について報告した。

●昨年広がった人のつながり

世一緒のピアサポート活動は当会が就労支援センターの運営を委託される少し前からスタートし、その後センターで導入部を担い、世一緒で持続的な取組みとして徐々に積み上げてきた。

昨年は「協同まつり in こしがや」に実行委員として世一緒のスタッフ数名が加わり、障害の有無をこえた共に働くつながりを広げた。また会としてDPI全国集会、全国協同集会や職業リハビリテーション研究発表会など全国的なつながりの場で発信する機会を与えられた。

このように、昨年は地域の内でも外でも人のつながりが広がった1年だった。

●地域適応支援事業のセカンドステップ

昨年3月には2011年度の越谷市障害者地域適応支援事業の報告交流会を初めて公開で行うことができた。

これまでは実習した本人、支援パートナーの施設職員等、受け入れ職場担当者とセンターだけでふりかえりを行っていた。昨年は初めて一般の市民、事業主、市役所職員等に参加を呼びかけた。ふりかえりだけでなく、水上公園の業務を委託元である公園緑地協会や独自の社会貢献活動として共に働き共に生きる場を提供している埼玉トヨペット、そして施設から地域で共に働きに出てゆこうと共同受注センターを運営している戸田わかくさ会から講演をしていただいた。

福祉施設を足場として地域へ出てゆくことも含めて、街の中に多様な働き方を開拓してゆく地域適応支援事業の第2期を具体的に考える足場を築いた。

そして、現在行われている2012年度の地域適応支援事業では、職場実習を経て事業所の就労してゆくことも含め、新たな展開がスタートしている。

●共に働く街づくりの第2期へ

共に働く街を創るつどい2012の最後に読み上げられた自治体提言も昨年の実績を反映した新たな内容が入っている。新たな年を迎えみんなで一歩を踏み出したい。

障害者ピアから誰もがピアとなる地域へ

パネル討論：ピアサポートによる障害者就労支援 その可能性と環境

昨年12月9日の共に働く街を創るつどい第2部では、越谷の取り組みを踏まえつつ、職場でのピアサポートの現状や課題、そして不登校体験者、市職員組合、事業主という異なる立場でのピアサポートの可能性や課題などについて語り合いました。

県、市からのコメントーターの発言やコーディネーターのまとめも含めて速報をお伝えします（敬称略）。



◇能力の高低に関わらずもっと職場へ

飛田まり：聴覚障害。会社員。前職は大企業の障害者枠だが仕事がもらえなかった。企業名公表をおそれ雇用したが差別的扱いがすごかった。今の会社は仕事はどんどんもらえる。高学歴の能力高い人を採用しているというのが提出される書類はぐちゃぐちゃ。どこが能力が高いのか、みんな同じだ思った。障害者が極少数派だから理解されない。雇用率2.0%にとどめずもっと仲間を増やしたい。

◇実習者を支え職場の人の病気相談も

塚原雄大：統合失調症。三郷郵便局勤務。三郷市障害者就労支援センターと職場の上司に支えられ郵便局で働いている。実習に来る障害者のサポートをしたり、職場で精神の病気になる人の相談に応じたりしている。

（大野：三郷市就労支援センター。郵便局での職場実習で社会に受け入れてもらった実感を得た人が多い。

相澤：郵便局の上司。その人の目線で仕事を考えることによって自立を支える。そういう職場を増やしたい。）

◇不登校体験者の働く不安を地域で支え合う

鎌倉賢哉：越谷らるご事務長。学校に行っていないことで、自己肯定感や自信がない子ども達のフリースクール職員。バイトを始めた子どもはコミュニケーション力を求められ辛いという。スタッフの中にもひきこもりの体験者や精神障害の手帳所持者がおり、共に生きる・自分のことは自分で決めるという原則を大事にしている。応援したいと言ってくれる事業所もあり、そこで職場体験した子どもたちは自信を得て帰ってくる。

◇違いを前提に職場・地域で生きる

清水賢吉：世一緒ファシリテーター。うつ病。2009年に地域適応支援事業の実習をしたことで、会社の都合に合わせる働き方ばかりでなく、自分の都合に合わせて会社に提案するやりかたもあると気づいた。世一緒ではファシリテーターを務めているが、知的障害の人たちが多くわからないことが多い。世一緒では今までの人生がまるで違うから噛み合わない人同士が、違うのは当たり前、それが社会と考え、違う中で少しでも支え合おうという意味でのピアサポートを試みている。

◇職場参加の仕事発掘は働く者の仕事

永野勝：越谷市職員組合委員長。委員長をしているのはほかの人に仕事をお願いするのが得意だから。障害者も一ヶ所に囲い込んでケアするのではなく、地域のどの職場にも参加できる仕事があるはず。社会に受け入れてもらったという自信を得られることが大事。それは仕事している我々が考えるべきこと。市役所だけでなく地域の他の職場にも広げてゆくためにも、市役所が仕事を発注するとき障害者の社会参加や環境、男女共同参画など率先して取り組んでいる会社を優遇する条例を作ってほしいと市長や議会にお願いしている。

◇地域・職場のつながりで仕事があった

金沢雄三：ミノミ化学社長。オイルショックで父の経営していた工場が倒産し、自分が規模縮小して工場を興し30数年たつ。従業員10名弱。これまで障害者を雇用したことはないが、就学前の障害児通園施設の親子をライオンズクラブで毎年雪遊びに連れて行っている。就労支援センターの訪問を受け、長い時間はダメ、単純な仕事を体験させてほしいと言われ、従業員がみなやりたがらない単調な仕事があったのでやってもらったら実習後働いてもらうことになった。

(沖山：越谷市障害者就労支援センター所長。かつて工場で働いていた人の息子さんが障害者でその団体のバザーに生産しているまな板を提供していただいたことや私自身が昔近所でアルバイトをしていて会社の名前を聞いたといった縁がありこの夏訪問させていただき秋に実習させていただいた。)

◇あなたにとってピアとは何ですか

飛田：障害者に限らず誰でも実践していること。

塚原：自分自身を鏡で見ている感じ。

鎌倉：子どもも含めて相手と向かい合うこと。

清水：指導・矯正になる危険もはらんでいる。

永野：得意・不得意を含め直接つながること。一緒に働き一緒に旅行したり。

金沢：何十年と同じ会社と付き合っている。復興支援に伴う仕事にも協力している。

◇ピアサポートの強みと克服すべき問題とは

飛田：ピアは障害者に限らず同じ立場での共感を踏まえた問題解決。職場の中の不満は上司にメールするが返事が別の人に返ってくることがあり本人に返事してくださいと言っている。同じ立場の人を職場で探すのは難しい。

塚原：精神疾患をもった者同士が相談するとお互いに気分が沈んでしまうことがあり、感情移入しないようにしながら話を聞くようにしている。

鎌倉：同じ問題があるが長い目で見ればピアサポートは必要なので、落ち込むこともあるが仲間意識を持ってやってゆければよい。

清水：共感し過ぎも危険だが共感しないと話が進まない。本人が青と言ってるのに急に赤だと言っても受け入れは難しい。それでもいいんじゃない、肩の力を抜けばと言って悩みを語れるようにし少しでもサポートできることがあればという姿勢でやっている。

永野：女性の出産・育児というハンディを持ちそれを男性も支えながら一緒にやってゆく。障害者の場合お互い障害があることを認め合っでスタートするのは強み。役所などは就労はフルタイムという常識に凝り固まっているが、障害者の側からこんな形なら働けると意思表示して常識を崩し共感できる仲間を増やして仕組みを変えてゆくことができると思う。

◇ピアサポートの展望、支援施策など

飛田：職場の人たちが将来障害をもっても大丈夫と思えるように、雇用率にこだわらずたくさんの障害者を職場に入れたい。

塚原：精神障害者を特別扱いせず、他の障害者と一緒に土俵で共に働く職場にしてほしい。

鎌倉：外向けにはらるごの職場体験や世一緒の

仕事発見ミッションのように街に出てゆく仕組みが増えていけばいい。内向きには仲間同士が一緒にいるだけでピアカウンセリングになるような場があることが大事。

清水：違う障害、育ってきた経験の違い、土台が違う者同士のピアサポートができれば面白い。

永野：2時間しか働けない人がたくさん集まれば同じ仕事ができる。それをNPOがやるなら支援すべきだし、行政がやるべきなら仕組みを作っていく必要がある。

金沢：うちは24時間営業で12時間勤務が4人いるが仕上げは昼だけで女性の方が多い。仕上げ場の仕事はできると思う。

◇会場からの質問と意見

大野：ピアサポートで大切なことは同じ職場にいる人と人として向き合ってゆくことを共有し、違う部分をおろしてゆくことかと思う。自分の立場に固執せず相手に合わせるのが自然にできているコツがあれば教えてほしい。

清水：相手の話を頑張って聴く。すると相手も歩み寄ってくれるしこちらも近寄って行ける。

永野：時間をかけて聴く態度が重要。そして相手の立場になって考えることが大事。

富樫：世一緒では障害を持っている人と持っていない人が一緒にやっている。ミノミ化学に見学に行きたい。

◇県、市のコメンテーターから

藤岡廣明：埼玉県就業支援課主幹。ひとは障害当事者同士が知り合うことができるネットワークづくりや事業主が異なる障害の人を雇う気持ちになれるような就労支援のネットワークを行政として誘導してゆく必要。

ふたつには支援体制は必要だが最終的には職場内でサポート体制ができることが大切。

みつつは身構えて雇用率ということではなく地域のつながりの中で障害者雇用を進めてゆくのがよいこと。

高橋成人：越谷市障害福祉課課長。ピアサポートというとき当事者だけで集まって進めると身構えてしまうところがあるのでファシリテーターが重要。



同じ障害の者同士のピアサポートだけでなく異なる障害を持つもの同士のピアサポートも長い時間はかかるがよい方法。

働いている時だけでなく就活中、離職後にもピアサポートの機会を設け孤立感・不安感を緩和し社会と一緒に生きているんだという感覚を常に持てるようにすることが大切。

◇コーディネーターまとめ

朝日雅也：異なる立場をこえてつながりあうことがさらに大事で、それは障害を持つ者同士だけでなく企業、支援者もそうだし、そういう立場をこえてつながりあうことが大事であり、ピアが狭い意味をこえて、街で働き・暮らすすべての人々が当事者として、ピアの枠組みを広げてゆくことが大切だと思う。

パネラー、コメンテーターの皆さんに感謝の拍手をお願いします。



共に働く街をめざす自治体提言まとめる

県東部地区の首長と意見交換を予定

共に働く街を創るつどい 2012 の最後に当
会がまとめた以下の提言を読み上げました。
年末から年頭にかけて、近隣の首長にお会い
して手渡し、意見交換します。多様な働き方
を支え共に生き共に働く地域への道をめざす
具体策を盛り込みました。

2012年12月9日

市長
様

NPO法人障害者の職場参加を
すすめる会代表理事 鈴木操
埼玉県越谷市東越谷 1-1-1 職場
参加ビューロー世一緒内

2012年度共に働く街をめざす提言

12月9日の「共に働く街を創るつどい2012」の開催にあたって、多大のご協力をいただき、誠にありがとうございました。この「つどい」の成果と日常の取組を踏まえ、提言を行います。

この「共に働く街を創るつどい」は当会の前身である「障害者の職場参加を考える会」の時から毎年障害者週間を記念して開催してきました。今年で13回目となります。名称が示す通り、障害者の就労をそれだけに終わらせず、これを切り口にして生活をそして障害のない人々を含む地域・職場を考え続けてきました。したがって、その都度、さまざまな立場が一堂に会して情報と意見を交換する場になってきました。当会の活動も地域及び全国とのネットワークも、この「つどい」から生まれたといっても過言ではありません。

とくにここ数年は障害者だけでなく生活保護受給者、高齢者、不登校体験者などの就労困難と生きづらさを抱えた人々やその支援者と「つどい」で出会い、その後もつきあったり一緒に動いたりする中で、地域の構造をより具体的に知ることになりました。障害者問題と思ってきた状況の背後に、障害のない他の人々の働き方・暮らし方の変化があることがわかってきました。

この自治体への提言は、あるべき未来から現実をこう変えよと説教するのではなく、当会や連携する団体・個人が実際に体験したこと、試みたことをベースとしています。国の大きな動きや県の施策はもちろんここにも反映していますが、基本的にはいま個々の市で取り組めるのではないかと考えたことのみを提言させていただきます。

3. 11の東日本大震災と原発事故は、この社会そのものの存在基盤を問いました。その大きく深い課題に向かい合いながら、私たちはまずひとりひとりが自らの暮らし方、働き方を見つめ直すところから共に歩き始めることを呼びかけます。

記

① 「共に働く」は「共に学ぶ」から

国は特別支援教育によって障害のある子どもたちをできるだけ早期から障害の状況に応じて分けて教育することによって社会的自立が進められると言ってきましたが、その証拠はどこにも示されていません。むしろ国の外郭団体である特別支援教育総合研究所のデータによれば、正反対の結果が出ています。1979年の養護学校義務化からの30数年間で、特別な教育を受けて卒業した生徒のうちの就職者数は激減しています。ちなみに少子化にもかかわらず、特別な教育を受けて卒業する生徒数は増えており、就職者数が減ったぶん福祉施設等に入所する者が増えているのです。

この特別支援教育総合研究所の研究者は、かつては中学の特殊教育の担任が子どもたちの住む地域を中心にきめ細かく職場開拓して就職に結びつけてきたのだが、ほとんどの子供たちが養護学校（特別支援学校）高等部に進むようになり、高等部の場合広域のためきめ細かい職場開拓ができなくなったことを理由として挙げています。このことは、小さい頃から障害のある子と出会うことがないまま大人になった人々が職場・地域の中に増えているということも意味します。障害のある人は特別な場に分けることが自然なのだと思います。職場・地域になろうとしています。

国の障害者政策委員会・差別禁止部会がさる9月に提出した意見書では、本人・保護者が希望する場合を例外として、分けて教育することも保護者が付き添わなければ学校行事に参加できないことも差別であり禁止すべきだとしています。貴市に

おかれても東松山市のように共に学ぶ教育への一歩を進め、共に働く街への入口を大きく開くことが大切です。

② 物品・役務調達推進法を契機に施設の地域化と入札制度の見直しへ

2013年4月から国等による物品及び役務の調達推進法が施行され、貴市においても毎年度障害者就労施設等からの物品及び役務の調達の目標を定めた方針を作成し公表しなければならないことになりました。さらに競争入札にあたって、業者が障害者雇用促進法に違反していないことと障害者就労施設等からの相当程度の物品及び役務の調達をしていることに配慮するという国の措置に準じて必要な措置を講ずる努力義務も課されました。

障害者就労施設等のほとんどが内職や利益の上がない自主生産に依存し、活動の多くが施設内に限られ、また平均で昼食代程度の工賃しか支給できない現状にあり、地域・職場と隔絶された環境を強いられています。後述する戸田や八王子の取り組みを参考に、貴市における障害者就労施設等からの物品及び役務の調達については、利用者一人当たり最低賃金程度を目安とした作業が可能となるような計画を立てる必要があります。とりわけ、市職員をはじめ他の市民との出会いが可能な役務の調達の計画に留意することが重要です。

入札に関する措置を講ずるにあたっては、上記のほか、障害者以外の社会的に排除されてきた人々への就労機会提供、物品及び役務の調達などを含めて総合的に評価できるような制度改革が必要であり、そのためにさまざまな就労困難を抱えた当事者が参加する検討の場を貴市として設置することが必要です。

③ 多様な働き方を受け入れる新しい公共事業を

昨年の「つどい」において、蕨戸田衛生センター内のリサイクルフラワーセンターが紹介されました。蕨戸田衛生センター組合、戸田市、蕨市が共同で運営し、循環型社会構築、美しい街づくり、障害者・高齢者雇用、環境教育、環境ボランティア育成等の複合的な目的をもつ公的施設です。ここで両市の5施設から障害者が職員とともに来て、シルバー人材の高齢者と一緒に花苗を生産し、最低賃金に合わせた報酬が支払われています。八王子市では、ペットボトルリサイクル工場を作りその運営を市内障害者施設・団体が多数参加するNPO法人に委託し、同法人は多数の障害者を雇用しています。

このように、自治体が地域のために実施する事業を、予め障害者団体や施設が連携して担い、雇用から施設外支援までさまざまな働き方を試みる開拓的な事業としてゆく方向を模索すべきです。

④ 社会的排除をこえて共に働く事業所の立ち上げと運営支援を

働くことへの大きな不安を抱えひきこもる若者が増えています。現行の生活保護制度にせよ高齢者福祉・医療にせよ「就労か福祉か」の二者択一であるため、働きたいけれど一歩が踏み出せない人も多くいます。安上がりの労働力として位置づけられるのではなく、地域社会が問われている事業を担って地域の他の人々と共に働きたい主婦や高齢者もいます。そうした人々と障害者が地域で共に働き・共に運営する地域に根ざした事業所の起業や初期の運営を公的に支援し、適切な公共事業を委託するなどの継続的支援策を検討する必要があります。

当会はこの「つどい」や「協同まつり in こしがや」などを通し、こうしたネットワークを構築し始めていますので、情報提供の用意があります。

⑤ 福祉・医療施設からの職場参加・グループワーク支援を

現行の多くの通所施設の活動を、地域に開かれたものとし、また地域の他の人々が福祉の対象者を含むさまざまな障害者と出会い・一緒に働いてみるという取り組みが必要です。越谷市が実施している障害者地域適応支援事業では、施設職員が本人とともに市役所等の職場に行き支援することで、職員と本人の関係を見直し合う機会となっています。この事業の12年間の積み重ねを踏まえ、今後、入所・通所施設や精神科病院等の利用者が、施設等に在籍したままで、グループを組んでの施設外就労を進めたり、職員の支援を受けながら職場実習・職場体験を随時行えるような支援策が必要です。さらに、民間企業も含めて地域に多様な働き方を可能にする仕事開拓をするには、戸田市のように、施設・団体等が共同受注センターを設立・運営することを自治体としてバックアップすることも大切です。

⑥ ピアサポートによる就労支援活動の育成・支援を

今回の「つどい」において、障害者をはじめ社会的排除を受けてきた人々にとってのピアサポートの重要性が明らかになりました。公的な支援機関と併せて市民活動としてのピアサポートの場育成・支援が大切です。貴市としても独自の支援策を検討されることが必要です。

⑦ 障害福祉計画・障害者計画に反映を

上記の事項に関し、貴市において障害福祉計画や障害者計画の見直し時に、反映させられるよう検討されるよう提言します。

グループワークに30人



11月1日に行われた水上公園花壇作業。秋の花を寄せて土を耕し、苦土石灰を入れて、春に向けてパンジーとビオラを植え込みました。

この作業には世一緒の未就労の障害者13名のほか、就労継続B、地域活動支援センター、院内デイケアなどの利用者が11名、職員等6名の計30名が参加しました。

可能な限り地域であたりまえに働く環境を経験できるようにと心がけており、今年度も夏までは最低賃金以上の配分金を施設、本人に支給してきましたが、参加希望者が予想外に増えた結果、配分金を少し下げざるを得なくなりました。作業開始前には全員で自己紹介を、終業時には全員で反省会を行い、交流を深めています。また毎回各施設等から一人出てもらい、みんなで管理事務所にも自己紹介と報告をしに行っています。

ヘアサロンに講師派遣



11月13日川口のヘアメイク feb のお招きでスタッフの勉強会の講師として、世一緒スタッフ、ファシリテーター、事務局長の3人でおじやしました。南浦和とここに店があり、そのスタッフ全員で定休日にときどき勉強会をしているそうです。学校長、刃物研ぎ師、事業主など、ジャンルを定めず話を聞いているとのこと。今回は統括マネージャーのSさんが職場参加ビューロー世一緒の前をたまたま通りかかったらワイワイ楽しそうな雰囲気だったので、飛び込みで講師依頼を受けました。世一緒でやっている商店街等の軒並み飛び込み訪問活動・仕事発見ミッションの逆バージョンです。代表のFさんも「ぼくもそういうの嫌じゃないですから」と語っておられました。

越谷市長に提言・懇談



12月21日、前ページの共に働く街をめざす提言を携え越谷市・高橋市長を訪問しました。武藤副市長、鈴木福祉部長、滝田秘書課長、高橋障害福祉課長が同席しました。

みな福祉部出身でこれまでも一緒に動いたりしていただいた方々で、温かい雰囲気でした。

当会鈴木代表が体調不良で欠席のため、松田理事が代表して挨拶し提言を手渡しました。山下事務局長からは、地域でのグループワークを進めるために4月施行の物品役務調達法を生かしてほしいことや、社会的排除を受け就労困難な人びとが働くことを支える入札制度を提案しました。沖山センター所長からは地域適応の次段階として週3時間でも市役所での就労をと訴えました。市としても多面的な検討を進めていることがうかがえる回答でした。



ほわいど ほしど

当会の事業インフォメーションあれこれページ。(左の絵はU.I.さん作)

当会の目的

この法人は、地域の事業所、福祉施設、学校、在宅障害者と家族、市民に対して障害者の職場参加活動を啓蒙、普及、促進する事業を行い、障害者の多様な働きかたの実現をめざし、労働と福祉の障壁の解消を図るとともに、共に育ちあい、働きあい、暮らしあうまちづくりを通して、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(定款第3条)

▷本部事業

●世一緒は未就労の障害者が電話番をしています

本部事業の拠点である「職場参加ビューロー・世一緒」は、専従職員がいません。月～金の10:00～16:00は、就労支援センターの利用者等の中から希望者を募り、職業体験の一環として、日替わりで電話番や掃除、来所者への説明、印刷・製本などの日常業務を担ってもらい、若干の謝金または実習手当を支給しています。

このほかにボランティアやアルバイトのサポーター、当事者ファシリテーターがいますが、いない時間もあります。世一緒に来所や電話をされるときは、お手数ですが、できるだけわかりやすい言葉で、短く、ゆっくりお話しいただければ幸いです。

ここは公的機関ではなく当会のインフォメーションセンターです。ご予約なしで通りがかりにお立ち寄りいただいてもかまいません。要領を得ない説明をするかもしれませんが、お時間があればその都度ご質問いただきながら説明させていただければと思います。

●委託事業(越谷市障害者就労支援センター)

こちらは市の機関で、当会が委託を受けて運営している場です。職員の数が限られ、職場や関係機関へ訪問することも多いため、予めお電話をいただき、調整させていただきましたければ、誰かが時間を分けたお話ができます。毎週火曜日の仕事や社会参加には事前に電話等で連絡をお願いします。求人広告を自分達でチェックしたり、商店街や工業団地に出かけて行って、職場見学をさせてもらったり、市民まつりなどに店を出したり、時々小さなアルバイトをしたりしています。毎日通う場ではなく、指導員もいません。先輩障害者や家族やその他のメンバーが、一定の応援はしています。利用料は不要。あなたも試してみませんか。

ガイダンスでは、個別相談だけでは十分にお伝えしきれないセンターのさまざまな活用方法について、わかりやすくご説明します。そのときどきの旬の情報もお知らせします。疑問・質問にもお答えします。何度でもご参加ください。

セミナーは、毎月テーマを決めワークショップ形式で行います。

会場はいずれも原則、産業雇用支援センター4階です。

●職場参加を語る会が1月16日(水)、2月20日(水)、3月13日(水)に開かれます。10:00～12:00です。

未就労の人、就労中の人、支援者、家族…誰でもふらりと参加できる近況報告や情報交換の場です。お気軽に。

会場は世一緒です。

●2012年度の公開報告交流会

地域適応支援事業がすべて終了した後
に昨年度から公開で行っている報告交流会は
3月26日(火)開催の予定です。



当会の事業

- ・特定非営利活動に係る事業
- ・職場参加の基盤形成のための支援事業
- ・福祉施設等の職場参加に関する協力関係の促進を図る事業
- ・障害者の就労・生活支援のための資料収集と情報提供に関する事業
- ・啓蒙と地域の輪を広げるための勉強会等を開催する事業
- ・国、自治体に対して施策を提言する事業
- ・協力事業所の開拓に関する事業

(定款第5条)

会員募集

障害者の職場参加をすすめる会では趣旨に御賛同いただける方を常時募集しています。

正会員
年会費 3,000円

賛助会員
個人年会費 3,000円
団体年会費 5,000円